



一般社団法人 **日本LD学会**
Japan Academy of Learning Disabilities

会 報 第130号

一般社団法人 日本LD学会 事務局（業務委託先）

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社

URL <https://www.jald.or.jp>

- ・巻頭言：令和時代の若者たち
- ・〈大会特集〉第33回四国大会事前講義
- ・〈連続講座1〉第9回 家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト
- ・〈連続講座2〉第9回 GIGA スクール時代における特別支援教育
- ・委員会リレー企画 ハラスメント防止委員会
- ・PATIO ～実践の最前線～
- ・事務局からのお知らせ



令和時代の若者たち

愛知教育大学

高橋 靖子

この夏パリ五輪が開催され、ブレイキンが新種目となりました。先の東京五輪でもサーフィンなどが選出されています。若者にも五輪に関心を持ってもらい、スポーツ離れやテレビ離れを防ぎたいとするIOCや他機関の思惑があるそうです。実際に、大学生にメディア視聴について尋ねると、ネットのニュースで済ませ、新聞・雑誌を読まない人が多数派です。

第2次ベビーブーム世代と比べて、現在の子どもの出生数は半減しています。2020年度国勢調査によると「夫婦と子ども世帯」は1980年度の42.1%から28.0%へと減り、代わりに「単身世帯」が19.9%から38.0%へと増加して一番多い世帯種別となっています。子どもが身近にいる社会は当たり前でなくなりつつあり、子どもや子育てへの無関心層が増えることが危惧されます。

先日、日本のポップスを聞いていたところ、「人を傷つける」といった歌詞が多いことに気づきました（米津玄師「地球儀」、King Gnu「白日」など）。競争化社会は収まったものの、若者世代

は他者を傷つけることへの恐れが強いのではないかと感じます。一方で、多くの若者はSDGsや自然環境、ジェンダーなどの人権の問題に関心が高く、「人の役に立ちたい」と考えています。例えば、内閣府「障害者に関する世論調査」（2023）からは、「差別や偏見」があると回答した若者（18～29歳）は92.1%と他年代と同程度であり、差別・偏見が「改善されたと思う」と回答する若者は48.6%と40～60代の約60%と比較しても低く、関心の高さを感じます。

今後、児童期から青年期にかけて自他を尊重できるような、多様性や人権に関する包括的な教育が求められます。同じ授業内容であっても受け止め方によって、悩みが軽減する人もいれば深まる人もいるため、細やかな個別支援が必要です。周囲の大人が一人ひとりの子ども・若者やその保護者に伴走することによって、ソーシャルサポートやソーシャルキャピタル（社会資源）の蓄積につながり、若者世代のメンタルヘルス向上に寄与することを期待します。